

ソクタイプ速記法

1 キーの配列

- (1) 左手の群れ Y T H K S A I O
- (2) 中の群れ T K I N
- (3) 右手の群れ O I A S K H T Y

2 キーの打ち方

- (1) 1打で打てる単語は1打打ちする。
- (2) キーを打つ指の分担は決まっている。

3 単語の打ち方

- (1) 法則1 頭の音節(頭音、前音)
単語の頭の音節は左の群れで打つ。
- (2) 法則2 中の群れ
左の群れの音節の次に、中の群れで表せる音節がくる場合は必ず中の群れを使う。
- (3) 法則3 a i、e i(あい、えい)
アイ列及びエイ列は、左または右の群れだけで表わす。2つの群れに分けて打たない。
言葉の組立としてa - i、e - iと切れるものでも同じである。
- (4) 法則4 アー、イー、エー
ア列及びイ列の長音は2つの群れで打つ。
〔外来語の長音短縮化〕ただしタイプライター、ハンマー、アイスクリーム、メンバーのような読み間違えるおそれのない外来語はタイプライタ、ハンマ、アイスクリーム、メンバのように長音を省いてもよい。
〔エー、エイ混用〕エ列の長音はローマ字で〔~エー〕と書くものも〔~エー〕と区別しない。
- (5) 法則5 2打以上の単語
1打で打ち切れない単語は、2打で打つ。

4 文章の打ち方

- (6) 法則6 単語を単位とする。
文章は単語を単位として、改めて左から打ち出すのを原則とする。
- (7) 法則7 短い言葉は追い込む。
「が、の、に、を、と、や、わ、も」などのような助詞、「ね、よ、か、さ」のような間投詞、助動詞の「だ」、その他短い言葉は、右側がぁいている場合には追い込む。
- (8) 法則8 複合語は続けて打つ。
「すき返す」「吹きやんだ」「縫い糸」「哲学者」「不注意」
ただし、前後とも独立性の大きいものや熟し方の緊密でないもの等は改行して打ってもいい。(「植物学者」「新憲法」「建築様式」「旧東海道」「化学作用」「直立不動」「オリンピック選手」「なべ焼きうどん」「北極圏内」)
- (9) 法則9 オウ、アウ
動詞語尾の〔~オウ〕と〔~アウ〕は〔オー〕と打つ。
次の例は「オウ」を打たないほうがよい。(「端唄」「小売り」「雄牛」)
- (10) 法則10 O + O(~お + を)
オ列の音の次に「を」(助詞)が続く場合や、1つの言葉の中で「オ」が続く場合は「オー」で表わす。
ただし長音「オー」のあとは普通に「オ」を打つ。
- (11) 法則11 テ + イ、デ + イ
動詞語尾の「~て」「~で」や助詞のあとに「イ」がくる場合、「~テイ」「~デイ」で表わす。
次のような場合は離して打ったほうがいい。(「たんぼ / + / で / + / イナゴが /)

5 畳音の書き方

- (12) 法則12 1打にできる畳音(中の群れのKNで表す)
中の群れの〔KN〕は左と右の群れの音節を2音節を2度繰り返して読むことを表わす。(「そろ」→「そろそろ」)
連濁で濁る場合も同じようにして表す。

次のような場合は〔KN〕は使わない。

(13) 法則13 2打以上の畳音
KNを使って畳音を表す。

(14) 法則14 KNのあとの助詞
〔KN〕を打った同じ行に追い込んで打たない。改行する。

6 略語の打ち方

(15) 法則15 中の群れの略語
助詞は中の群れのキー「TKIN」で表す。(「に」T、「が」K、
「で」TK、「わ」I、「の」N、「も」IN)